

28P-am126

医薬品苦味のマスキング効果を有する口腔粘膜被覆シロップの開発

○加賀美 マキ^{1,2}, 花輪 剛久², 土屋 千佳子², 鈴木 正彦², 小口 敏夫²

(¹山梨大院医科, ²山梨大病院薬)

【目的】医薬品は苦味を呈するものが多く、患者の服薬アドヒアランスを低下させる原因とされており、医薬品の苦味マスキングは薬物治療において重要な課題となっている。

我々は、第 129 年会において、苦味マスキングを目的に、医薬品服用直前に口腔内に散在する苦味受容部位を苦味マスキング剤 (BMI-40) で被覆可能な“苦味マスキングフィルム”を試作した。しかし、BMI-40 自身の苦味渋味により、十分な苦味マスキング効果を得ることができなかった。そこで今回は、粘膜付着性を有する水溶性高分子および BMI-40 を含有する口腔粘膜被覆シロップ (苦味マスキングシロップ) の調製を試みた。

【方法】種々の水溶性高分子 (CMC-Na、HPC、HPMC) の口腔粘膜滞留性について、ムチンを用いた口腔粘膜モデルを作成して評価した。また、動的粘弾性測定により口腔内への拡げやすさを評価し、基剤とする高分子を決定した。この基剤に BMI-40、アスパルテーム及びフレーバーを種々の比率で添加して調製した苦味マスキングシロップのテクスチャーおよび苦味医薬品服用時の苦味抑制効果を味覚センサ、ヒト官能試験により評価した。

【結果および考察】口腔粘膜滞留性および動的粘弾性の評価から、基剤に適した水溶性高分子は HPC であることが明らかになった。また、味覚センサ、ヒト官能試験の結果から、BMI-40 に加え、フレーバーを含有する苦味マスキングシロップは BMI-40 自身の苦味渋味もマスクすることが明らかとなり、口腔粘膜付着性高分子水溶液に苦味抑制剤 (BMI-40) と種々の添加剤を添加することにより、苦味マスキング効果をさらに向上できるものと考えられた。